

## 第13回新しい資本主義実現会議提出資料

令和4年11月28日

(株) シナモン 代表取締役 Co-CEO 平野未来

本日提示された「スタートアップ育成5カ年計画」と「資産所得倍増プラン」についてであるが、6月以来の新しい資本主義グランドデザイン及び実現計画及び工程表に基づき、着々と進捗していることを証明する成果物として、関係者の皆様の活動、高く評価されるべきと考える。

スタートアップに関する包括的・長期的な計画がこの広範かつ包括的な構造で世にでたことはメンバーとしても大変嬉しく感じるとともに、以降の予算編成や実行において、加速実現されることを心より望むものである。

また、高度成長期の金融システムをも根本から変革し、「成長と分配の好循環」の実現の基盤となる「資産所得倍増プラン」も細部にわたる広範な政策実現計画として歴史的意義を持つものだと感じる。

以上の評価を前提に、我国が主導する新しい資本主義は一人ひとりの国民の持続的な幸福を実現するものでなければならないという視点から、実現に向けて来年6月のフォローアップを視野に以下の視点を提示したい。

## 1. GDPを補完する指標としての一人当たりGDPの強調

成長を図る指標としてGDPに代わるものが存在していない現状であるが、急激な人口減少にさらされる我が国においては、一人当たりGDPもより重要な指標として強く意識されるべきではないだろうか。世界ランキングで27位まで後退しており、これを向上させることが持続的な幸福につながる。

## 2. 基礎的条件としての安全保障の意識づけ

実行計画の中でも安全保障に対する深い危機感と警鐘が表現されていたが、計画策定の時期よりもさらに権威主義的国家間の連携が進み、我々の普遍的価値に対する脅威は高まっている。安全保障領域における最先端の技術を取り込んでいくために、また、最新技術の国外流出を防ぐためにもスタートアップとの連携を検討することには大きな意義があるのではないか。

AIのような先端技術と安全保障の連携についてはデュアル・ユースや倫理の

問題もあり、政府とのより深い協議がなければ進展しえない。すでに民間セクターでも大企業との連携はこの 10 年程で相当に進展していると理解しているが、その連携、協議の領域をスタートアップにも広げていくことにより、日本初のテクノロジーやスタートアップのサイズが大きくなることにも大きな可能性が広がっている。あえて新しい資本主義実現会議の文脈を利用しより広いマルチ・ステークホルダーで広く意識づけをしていく必要があると考える。また、来年の G7 においても経済と安全保障の流れの中で本会議のアウトプットを活用して普遍的価値を共有する国家間の議論を先導すべき。

### 3. 「コロナ後の新しい社会の開拓」に「深刻化する自然災害への備え」を加える

本会議でも折に触れて指摘しているが、パンデミックに加えて自然災害について、防災、減災、加えて、迅速な復旧、復興に対してレジリエンスを上げたディザスター・レジリエントな社会を創っていくことが重要である。南海トラフ地震、首都直下型地震なども深刻に危惧されるなか、会議のハイレベルにおいて一刻も早くこの意識づけを開始すべきではないか。

以上、本会議の成果をさらに包括的・長期的なものとなることを願い視点を提示

させていただいた。

以上